景況レポート 4月

4月の県内景況は、「在庫数量」「取引条件」「資金繰り」の3項目のDI値が改善したものの、引き続き低調に推移。景気の低迷が感じられ、不安が残る新年度の幕開けとなった。

情報連絡員による平成28年４月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は10.9%（前月比－0.4）となっており、「横這い」は43.6%（同＋2.1）、「低調」とするところが45.5%（同－1.7）、業界全体の「景況感DI」は－34.5（同＋1.3）となっています。

１．全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「在庫数量」「取引条件」「資金繰り」の項目が前月と比較して好転しています。

２．業種別の「業界の景況」

◇ 前年同月と比較して、食料品製造業は「快晴」、繊維製品製造、鉄工機械製造業、卸売業、小売業、サービス業、建設業は「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇ 来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、14.5%（前月比＋3.2）と増加しております（好転の回答０件、やや好転の回答８件）（製造業３、非製造業５）。また、変わらないが、52.8%（前月比－13.2）と減少しております。やや悪化、悪化の見込みは、32.7%（前月比＋10.0）と増加しております。

平成28年４月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率95.0%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	16.67	－16.67	0.00	0.00	0.00	16.67	0.00	0.00	0.00	－33.33	16.67	16.67
繊維製品製造	66.67	33.33	－33.33	－33.33	0.00	0.00	0.00	33.33	0.00	0.00	－33.33	0.00
木材木製品製造	0.00	－100.00	－33.33	0.00	－33.33	－66.67	0.00	－33.33	0.00	－33.33	－33.33	－100.00
鉄工機械製造	－100.00	－100.00	0.00	0.00	－25.00	－25.00	0.00	0.00	－25.00	－50.00	0.00	0.00
その他の製造	－33.33	－50.00	16.67	0.00	－33.33	－33.33	－16.67	－33.33	16.67	0.00	－16.67	－33.33
卸売業	－50.00	25.00	0.00	25.00	－75.00	0.00	－25.00	－25.00	0.00	0.00	－25.00	0.00
小売業	33.33	－11.11	11.11	－22.22	11.11	－22.22	11.11	－11.11	－22.22	－44.44	－44.44	－22.22
商店街	－50.00	－66.67	－16.67	0.00	－33.33	－50.00	－50.00	－50.00	0.00	－16.67	－33.33	－50.00
サービス業	14.29	0.00	14.29	14.29	0.00	－14.29	－14.29	0.00	0.00	0.00	14.29	－14.29
建設業	－60.00	－50.00	0.00	50.00	－20.00	0.00	0.00	25.00	－20.00	－25.00	－20.00	0.00
運輸業	－100.00	－100.00	0.00	0.00	－100.00	－100.00	－50.00	－50.00	0.00	－50.00	－100.00	－50.00

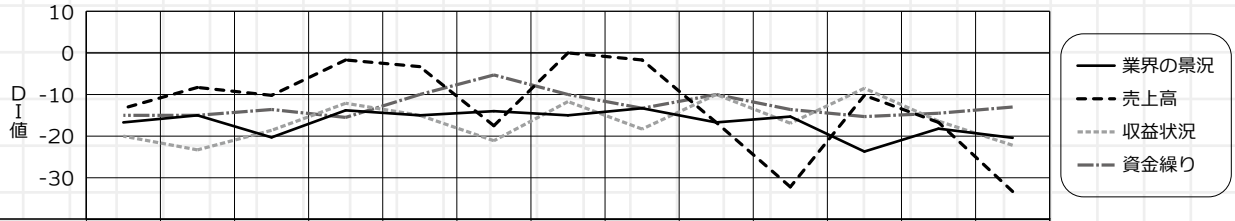
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D･I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

快　晴	30以上
は　れ	10～30未満
うすぐもり	－10～10未満
く も り	－30～－10未満
雨	－50～－30未満
大　雨	－50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種 DI 値（平成27年４月～平成28年４月）



	平成27年４月	平成27年５月	平成27年６月	平成27年７月	平成27年８月	平成27年９月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年１月	平成28年２月	平成28年３月	平成28年４月
業界の景況	－16.7	－15.0	－20.3	－13.8	－15.0	－14.0	－15.0	－13.3	－16.7	－15.3	－23.7	－18.2	－20.4
売上高	－13.3	－8.3	－10.2	－1.7	－3.3	－17.5	0.0	－1.7	－16.7	－32.2	－10.2	－16.7	－33.3
収益状況	－20.0	－23.3	－18.6	－12.1	－15.0	－21.1	－11.7	－18.3	－10.0	－16.9	－8.5	－16.4	－22.2
資金繰り	－15.0	－15.0	－13.6	－15.5	－10.0	－5.3	－10.0	－13.3	－10.0	－13.6	－15.3	－14.5	－13.0

食料品製造業

＜漬物＞

円高が原料価格を下げている。まだ昨年からの原料を持っているため、収益は良くないが徐々に良くなっていくものと思われる。

＜味噌醤油＞

風評被害の影響が根強く残り、今なお深刻な状況が続いている。味噌醤油の出荷量は相変わらず減少傾向であり、如何にして歯止めをかけるかが、今後の課題である。

＜菓子＞

５月の端午の節句、母の日等が過ぎると閑散期に入る。この時期の売上減をどの程度に抑えることが出来るのか頭の痛い時期である。

＜酒造＞

前月同様、吟醸酒、純米吟醸酒を中心に販売を伸ばしている。４月18日開催の新酒まつりも上々の評判で、チケット販売の当日に完売となるほどである。原料米の出来、仕込み時期の暖冬と厳しい条件であったが、美味しい新酒ができた。

＜食品団地＞

原油価格は大きな変動もなく、生産量も例年に近い状況である。ただ、天候による影響で季節商品の切り替えが早まり、生産対応が難しい時期もあった。消費は若干上向きであったが厳しい状況は続いている。

縫製品・同製品製造業

＜ニット＞

秋冬物の生産に入っているが今後の動向が気になるところである。

木材・木製品製造業

＜製材業＞

木材製品の需要は４月に入っても回復せず、前月同様、低調減が続いている。このため丸太価格も全体的に値下がり傾向が続いている。

＜外材輸入＞

３月の新設住宅着工数は75,744戸（前年同月比8.4%増）と３ヶ月連続で増加したが、一般製材品は昨年秋以降、弱含みのまま推移し全般的に低迷した状況が続いている。

紙・紙加工品

＜紙器・段ボール箱＞

県内紙器段ボール箱業界は、大手工業製品や農産物をはじめ、あらゆる分野において多様な形で使用されている。商品保護はもちろん、機動性等、その役割の重要性は益々高まり、私たちの生活の一端として欠かせない存在となっている。我々紙器を取り巻く経営環境は構造的な変化が進んでおり、新たな時代に即応した業界体制を構築すること必要となっている。

印刷業

＜印刷＞

新年度に入り、業界的にも大きな変化は見当たらず、各社とも地道な営業活動で新年度の予算取りに奔走している。

窯業・土石製品製造業

＜陶磁器＞

同じ建屋の中のレストランが移転のため、今後の焼物販売所への入館者数が減少気味の予測がされる。

＜砕石＞

(県北地区)

１．当月売上数量　　前月比　　約18%減
２．当月売上数量　　昨年同月比　約21%減
３．28年度売上数量　昨年対比　　約21%増
４．原因・現状　新年度に入り、除染関連工事及び土木工事からの注文が減少した。

＜生コン＞

平成28年４月の組合員生コン出荷数量は、157,169㎥と対前年同月比89.3%。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比101.8％、官公需が72.3%であった。

○民需の動向
対前年同月比　1.1%増
対前年同月比増加地区
＜県北地区＞　3.9%増　福島駅前ホテル新築工事、仲間町集合住宅新築工事等
＜白河地区＞　55.9%増　化学工場新設工事等
＜相双地区＞　21.1％増　東電社員寮、物流センター建設工事、原発保安対策工事等
＜会津地区＞　6.9%増　老人福祉施設建設工事等
対前年同月比減少地区
＜県中地区＞　10.9%減　総合病院建築、新福島郵便処理施設新築工事等
＜いわき地区＞　33.3%減　工場、物流センター、マンション新築工事等
○官公需の動向
対前年同月比　27.7%減
対前年同月比減少地区
＜県北地区＞　8.5%減　庄司淵・腰巡トンネル、県警本部庁舎等
＜県中地区＞　59.7%減　西部第一工業団地造成工事、郡山合同庁舎建設工事等
＜白河地区＞　5.8%減　西郷村村民プール建設工事、石川町役場新築工事等
いわき地区＞　20.5%減　港湾災害復旧、小名浜東港関連工事等
＜相双地区＞　28.4%減　減容化施設、廃棄物処理施設整備工事、トンネル、海岸復旧工事等
＜会津地区＞　40.9%減　復興公営住宅､橋梁工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

＜鉄工＞

(県中地区)

鉄工加工､製缶､機械加工等､全体的に低調であった。

＜各種プラント機器＞

当組合のプラント設備関連業界は、売上高が前月比で25%減、前年度月比においても19%減の低調な新年度スタートとなった。しかし、新年度予算に基づく引き合い物件が増加傾向にあり、先行きに期待感が持てる状況である。

卸売業

＜卸売業＞

（県中地区）

農業資材関係は、時節がら好調の建設資材とともに堅調に推移。それ以外の業種はまあまあ。人手不足感は引き続き多くの業種で感じているようだ。今まで好調だった業種からも復興特需が終わりに近づいているのでは？との声が聞かれ始めている。

＜再生資源＞

円高で、輸出向けの古紙の価格が下がった影響で、国内向けについても低調である。今後、ますます円高が進めば、国内向けの価格が更に下がることが懸念される。鉄スクラップについては、輸出市況が上昇し、為替条件が悪い中でも、輸出向け取引が活発化している。

小売業

＜共同店舗＞

（県中地区のOショッピングセンター）

消費税の増税により前年度は売上げが悪かった為、本年度前年実績が伸びている。

（県中地区のNショッピングセンター）

大きな変動はみられない。

＜石油＞

４月は元売仕切価格が大幅に上昇したことにより、小売価格も上昇に転じた。しかしながら、仕切上昇分の転嫁には至っておらず、厳しい経営状況が続いている。

＜青果＞

前月から野菜価格の高騰は部分的に続いた。ただ、全体的に入荷数が少なく取扱も前年に比べ伸びなかった。今後、熊本地震の影響で入荷数の激減や単価高騰がおきるものとみている。来月には連休もあるので少しでも取引増加になるよう期待したい。

＜家電＞

前年同月期よりやや低調。今後、個店等で少しでも挽回できればと思う。

商店街

＜福島市＞

４月は花見山観光のお客様が多数福島市に訪れる月である。また、アフターDCの目玉企画として県立美術館にてフェルメール展が開催され、花見の時期が終わった後も、美術館への来訪者で賑わいが保たれた。とはいえ、賑わいをもたらしてくれるのは、JRを利用していただいた１割の方々だけであるのが現状。JR利用客は街なかを散策し、美術館も訪れ、宿泊して下さるというありがたいお客様であり、この方々をがっかりさせないようなおもてなしを今後も考えて行かなければならない、という課題が残った。

＜郡山市＞

先月行ったカラス駆除は非常に効果があり、今まで多かった糞害もほとんど見られなくなった。カラスの大群は数年前から商店街の懸念事項だったが、効果を維持するためには定期的に今回の鷹匠による鷹飛ばしを行っていく。糞害は来街者にも悪い印象を与えて来街者減の一因でもあったが、今後好転することを期待している。

＜南相馬市＞

ギフトシーズンも過ぎ、全体的に低調である。大型連休は多くの来街者があり、賑わったがそれ以降、街は閑散としている。

＜会津若松市＞

４月は寒暖の差が激しく、季節物の動きが悪い一ケ月となった。ここ最近、特に日曜日の売り上げが伸びないという話をよく聞く。週末、郊外に外出するお客様をいかにして呼び込むかは、商店街全体で取り組むべき問題である。

＜いわき市＞

新年度のスタートというのに良いスタートが切れていない。ファッション関連を中心に厳しい様子。３月下旬からの入進学シーズン需要も芳しくない。飲食以外は低調。そもそも物販店の減少と飲食店の増加という現状の商店会ではあるが、人手不足で昼の営業を休む飲食店もあり、昼の通行者数も減っているように感じる。

サービス業

＜クリーニング＞

寒暖の差や悪天候の要因ばかりでは無いと思われる。例年に比べて荷動きがなかった。

＜旅館業＞

（いわき湯本温泉）

３月から比べると多少宿泊客は多かったような気がする。一方で、前年から比べると宿泊数は減っているように感じる。

（土湯温泉）

昨年同月と比較し、天候が良く、ふくしまアフターDCの効果が出た月であった。特に、コードＦ６による人出は観光地を賑やかにさせ、それぞれの地域の魅力と新しい発見を観光客の方々へ与えている。県内からの参加率は約70％であるが、関東圏からの参加率も高く、そしてリピート率も高いことからこの企画は今後も進化させてほしいと思う。土湯温泉では、都市再生整備事業で街並みの修景整備を展開中で、店舗の外観、駐車場等の整備を進めている。すでに３物件の整備が終えた。今年度は６物件の整備予定であり、新たなまちの景観を生み出し、観光交流人口の増加を目指している。

＜理容業＞

天候にも恵まれた月初めは入学時期でもあり子供客も多くまずまずだった。花見シーズンはいつも忙しい時期なのでどの地域も例年通りとの連絡だった。中盤少し中弛みがあったが、後半はゴールデンウィークで出かける準備もあるようで忙しかった。連休明けからは、客数も減るため、季節感や新鮮さを出したメニューづくりに力を入れるよう営業力を強化していく。

＜一般廃棄物収集運搬＞

通常業務の実績は、前月に比べ若干の増加となった。震災関連事業が昨年10月からスタートしたが業務の発注に関して発注元の都合により発注量の変動が大きいため収益、資金繰りが短期的に悪くなる状況がある。産業廃棄物に関しては依然として排出量が震災前の水準には届かず、当該事業として苦戦している状況である。また、雇用の安定化を図っているが南相馬以南の除染業務に人員を取られる状況がみられる。

建設業

＜建設業＞

（県南地区）

除染業務は継続して行われているが、完了し手持ち工事がなくなってきた業者も増えてきている。土木工事は減少したままである。建築工事は民間の工場新築・増築などが若干増加している。住宅建築も若干増加している。

＜管工事＞

前月比で給水・排水設備申請とも減少しているが、前年度対比では給水・排水設備申請とも増加している。

＜専門工事＞

新年度に入ったが目立って業況が良くなる状況と言ったものは見られない。その一方で、熊本の震災や株式市場の下落等、地域の市況としては遠因としてのマイナス要因となり得る状況が発生している。又、技術者不足や若手技能者の育成と言った問題は今だ継続しているため、業界としての対応もきちんとしなくてはならないが、５月には組合の総会もあり、意思疎通と方向性の共有化を図りたいと考えている。なお、夏の参議院選挙に向けた動きが始まっている。福島は議員の定数が減ったので、市民としてもその動向を注視していかなければならない。

運輸業

＜トラック運送＞

（県北地区）

売上は横ばいか減少傾向にあり、燃料価格は上昇傾向にあるため収益は減少傾向にある。

＜ハイヤータクシー＞

花見山の桜も早くに咲き、その後の観光での動きが悪く、思いのほか減少した。